

令和2年度

邑南町水道事業会計決算審査意見書

邑南町監査委員

目 次

各会計歳入歳出決算審査意見

第 1	審査概要	1
	1. 審査の対象	
	2. 審査の期間	
	3. 審査の方法	
第 2	審査の結果	1
第 3	決算の状況	2
	1. 水道事業の経理	2
	2. 予算執行状況	2
	（1）収益的収入及び支出（税込）	2
	（2）資本的収入及び支出（税込）	2
	（3）収支状況（税抜）	3
	（4）その他の事項	4
	3. 業務状況	7
	（1）給水状況	7
	（2）建設改良事業の状況	7
	4. 財政状態について	8
第 4	審査意見	9

令和2年度水道事業会計決算審査意見書

第1 審査の概要

1 審査の対象

令和2年度邑南町水道事業会計決算並びに証書類、事業報告書及び地方公営企業法施行令第23条に定めるその他の書類（キャッシュ・フロー計算書、収益費用明細書、固定資産明細書及び企業債明細書）

上記決算について作成すべき書類（決算報告書並びに損益計算書、剰余金計算書、剰余金処分計算書及び貸借対照表）

2 審査の期間

令和3年7月1日から7月21日まで（15日間）

現地踏査：令和3年8月2日（1日間）

3 審査の方法

この決算審査にあたっては、決算書類が地方公営企業法その他関係法令に準拠し、関係帳票及び証書類の計数と合致しているかを確かめるとともに、予算の執行及び事業の経営が、適正かつ効率的に行われているかを主眼として実施した。

なお、本事業の経営については、その動向を把握するため、決算内容を分析し、職員の説明を求め、慎重に審査した。

第2 審査の結果

審査に付された決算書類は、関係法令に準拠して適正に作成され、関係帳票及び証書類との照合の結果、計数は正確であり、また、水道事業の経営成績及び財政状況を適正に表示しているものと認めた。

決算状況及び審査意見については、次のとおりである。

第3 決算の状況

1. 水道事業の経理

令和2年度邑南町水道事業の経理は、公営企業法の適用を受けて4年目となった。経理はその企業活動を正確に把握するため、営業に係る活動を損益取引（収益的収支）と、営業活動以外における資本の増減を資本取引（資本的収支）として明確に区分する複式簿記を採用している。

2. 予算執行状況

(1) 収益的収入及び支出（税込）

収益的収入及び支出は、企業の経営活動に伴い発生する収益と、これに対する費用である。

令和2年度の収入にあたる水道事業収益は、予算額4億4,198万6千円に対し、決算額は4億5,140万6千円で、前年度に比べ3,837万7千円（9.3%）の増収となっている。これは、水道料金と他会計補助金の増が大きい。

支出にあたる水道事業費用は、予算額4億4,700万6千円に対し、決算額は、4億4,342万2千円で、前年度に比べ779万8千円（1.8%）の増となっている。この要因は、消費税及び地方消費税である。

令和2年度の収益的収入及び支出の執行状況は次表のとおりである。

（単位：千円・%）

区 分	令 和 2 年 度					
	予算額 (A)	決算額 (B)	予算額との 増減 (A)-(B)	執行率 (B)/(A)	決 算 構成比	備 考
水道事業収益	441,986	451,406	△ 9,420	102.1	100.0	
営業収益	215,836	224,792	△ 8,956	104.1	49.8	
営業外収益	226,150	226,614	△ 464	100.2	50.2	
水道事業費用	447,006	443,422	3,584	99.2	100.0	
営業費用	379,924	378,044	1,880	99.5	85.3	
営業外費用	66,809	65,378	1,431	97.9	14.7	
予備費	273	0	273	0.0	0.0	

(2) 資本的収入及び支出(税込)

資本的収入及び支出は、将来にわたり経営の安定を図るための設備投資に係る収入と、これに対する費用である。

令和2年度における資本的収入は、予算額1億6,909万4千円に対し、決算額も同額の1億6,909万4千円で、前年度に比べ2億1,754万5千円(56.3%)の減となっている。これは、企業債の減と国庫補助金がなかったことが大きい。また増要素は他会計補助金と新たに島根県からの工事負担金がある。

資本的支出は、予算額3億3,398万8千円に対し、決算額もほぼ同額の3億3,398万5千円で、前年度に比べ2億2,310万1千円(40.0%)の減となっている。支出の内訳は、建設改良費が2億3,344万7千円の減、企業債償還金が1,034万6千円の増となっている。

この結果、資本的収入が資本的支出に対して不足する額1億6,489万1千円は、過年度分損益勘定留保資金5,935万8千円、当年度分損益勘定留保資金1億553万3千円で補填されている。

令和2年度の資本的収入及び支出の執行状況は、次表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	令 和 2 年 度						
	予算額 (A)	決算額 (B)	翌年度 繰越額 (C)	予算額との 増減 (A)-(B)-(C)	執行率 (B) / (A)-(C)	決 算 構成比	備 考
資本的収入	169,094	169,094		0	100.0	100.0	
企業債	46,600	46,600		0	100.0	27.5	
他会計補助金	116,109	116,109		0	100.0	68.7	
工事負担金	6,385	6,385		0	100.0	3.8	
資本的支出	333,988	333,985	0	3	100.0	100.0	
建設改良費	54,047	54,045	0	2	100.0	16.2	
企業債償還金	279,941	279,940	0	1	100.0	83.8	

(3) 収支状況(税抜)

令和2年度における経営状況(税抜)は、総収益が4億3,093万9千円に対して、総費用が4億2,273万1千円で、当年度純利益が820万8千円となっている。これは、繰入れ基準額の増加により他会計補助金が増えたことが大きいため、当年度未処理欠損金は減少して1億5,068万4千円となっている。

前年度と比較した損益の状況は次表のとおりである。

(単位：千円・%)

区 分	令和2年度 (a)	令和元年度 (b)	前年との増減 (a)-(b)	伸率 (a)/(b)	備 考
営業収益 (A)	204,384	200,829	3,555	101.8	
営業費用 (B)	372,873	376,804	△3,931	99.0	
営業損失 (C=A-B)	168,489	175,975	△7,486	95.7	
営業外収益 (D)	226,555	194,260	32,295	116.6	
営業外費用 (E)	49,858	54,724	△4,866	91.1	
経常利益 (F=D-E+C)	8,208	△36,439	44,647	-	
特別利益 (G)	0	12	△ 12	皆減	
総収益 (H=A+D+G)	430,939	395,101	35,838	109.1	
総費用 (I=B+E)	422,731	431,528	△8,797	98.0	
純利益 (J=H-I)	8,208	△36,427	44,635	-	
前年度繰越欠損金 (K)	158,892	122,465	36,427	129.7	
当年度未処理欠損金 (J-K)	150,684	158,892	8,208	94.8	

(4) その他の事項

ア 企業債

令和2年度の企業債は、新たな借入が1件4,660万円(利率0.5%)、償還総額は2億7,994万円である。この結果、2年度末の状況は、平成4年度以降の借入分66件で、企業債残高28億5,449万4千円となっている。

(単位：千円)

区 分	令和2年度	令和元年度	備 考
当年度企業債借入高	46,600	197,000	
企業債発行総額	6,021,600	6,035,100	
当年度企業債償還高	279,940	269,594	
企業債償還高累計	3,167,106	2,947,266	
年度末企業債残高	2,854,494	3,087,834	

イ 一時借入金

該当なし

ウ 流用

「営業費用及び営業外費用の間の流用」並びに「議会の議決を経なければでき

ない経費の流用」はともに該当なし

エ 他会計からの補助金

邑南町一般会計から収益的収入に1億6,959万1千円、資本的収入に1億1,610万9千円、合計2億8,570万円の補助金があり、それぞれ目的に沿って充当されている。

オ キャッシュ・フロー計算書

当期純利益を起点として、これに調整項目を加減算する事によって、純粋な現金の増減を表示するものである。業務活動によるキャッシュ・フローは1億3,853万円の増、投資活動によるキャッシュ・フローは6,825万9千円の増、財務活動によるキャッシュ・フローは2億3,334万円の減で、令和2年度の資金の増減は、2,655万1千円の減となった。

令和2年度のキャッシュ・フロー計算書は、次表のとおりである。

令和2年度邑南町水道事業キャッシュ・フロー計算書

(令和2年4月1日から令和3年3月31日まで)

(単位：千円)

1 業務活動によるキャッシュ・フロー

当年度純利益	8,208
減価償却費	247,306
資産減耗費	2,644
賞与等引当金の増減額 (△は減少)	△ 1,203
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	32
長期前受金戻入額	△ 56,202
受取利息及び受取配当金	0
支払利息	49,363
未収金の増減額 (△は増加)	△ 115
未払金の増減額 (△は減少)	△63,465
預り金の増減額 (△は減少)	1,325
小計	187,893
利息及び配当金の受取額	0
利息の支払額	△ 49,363
業務活動によるキャッシュ・フロー	138,530

2 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出	△ 49,144
他会計からの繰入金による収入	111,598
工事負担金による収入	5,805
投資活動によるキャッシュ・フロー	68,259

3 財務活動によるキャッシュ・フロー

建設改良費等の財源に充てるための企業債による収入	46,600
--------------------------	--------

建設改良費等の財源に充てるための企業債の償還による支出	△ 279,940
-----------------------------	-----------

財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 233,340
------------------	-----------

資金減少額	△ 26,551
-------	----------

資金期首残高	145,635
--------	---------

資金期末残高	119,084
--------	---------

カ 水道料金の収納状況

令和2年度水道料金の収入済額は、2億2,222万6千円で、前年度に比べ694万3千円(3.2%)増収となっているが、収納率は91.3%と0.1ポイント下降している。

うち現年度の収入済額は、2億653万2千円で、収納率は92.5%と0.1ポイント増加しているが、過年度(令和元年度以前)の収入済額は1,569万4千円で、収納率は78.0%と1.7ポイント下降している。

未収は、金額、件数ともに増加している。

令和2年度の水道料金の収納状況を前年度と比較すると、次表のとおりである

(単位:千円・%)

年度	区分	調定額	収入済額	不納欠損額	未収額	収納率	未収の件数
2	現年度	223,251	206,532	0	16,719	92.5	4,238
	過年度	20,133	15,694	11	4,428	78.0	943
	計	243,384	222,226	11	21,147	91.3	5,181
元	現年度	216,803	200,364	0	16,439	92.4	4,367
	過年度	18,714	14,919	101	3,694	79.7	782
	計	235,517	215,283	101	20,133	91.4	5,149

キ 給水停止の措置状況
該当なし

3. 業務状況

(1) 給水状況

令和2年度の給水状況は、給水人口が前年度に比べ143人(1.6%)減の8,976人、給水戸数は、39戸(0.9%)減の4,142戸となっている。年間総配水量は前年度に比べ76,474m³(6.0%)増、年間総有収水量は24,341m³(2.6%)増とともに増加しているが、有収率は70.6%で2.3ポイント下がった。給水原価と供給単価からの料金回収率は48.0%と1.8ポイント改善した。

また、利用者の設備を7種の口径別に見た構成比率は、最細管の13mmが最も多く、戸数で74.0%、有収水量で55.1%を占めている。

給水状況を前年度と比較すると、次表のとおりである。

(単位:千円・%)

区 分	令和2年度 (a)	令和元年度 (b)	増 減 (a) - (b)	伸 率 (a) / (b)	備 考
年度末給水人口 (人)	8,976	9,119	△143	98.4	
年度末給水戸数 (戸)	4,142	4,181	△39	99.1	
年間総配水量 (m ³)	1,346,416	1,269,942	76,474	106.0	
一日平均配水量 (m ³)	3,689	3,470	219	106.3	
年間総有収水量 (m ³)	950,728	926,387	24,341	102.6	
一日平均有収水量 (m ³)	2,604	2,531	73	102.9	
有 収 率 (%)	70.6	72.9	△2.3P	—	
給水原価 (円 / m ³)	444.64	465.82	△21.18	95.5	
供給単価 (円 / m ³)	213.50	215.08	△1.58	99.3	
料金回収率 (%)	48.0	46.2	1.8P	—	

(2) 建設改良事業の状況

令和2年度の建設改良事業は23事業が完了した。比較的小規模な工事が多かったため総工事費4,494万7千円と前年度の15.9%であった。主なものは、瑞穂東簡易水道基幹改良事業の吉時工区送配水管布設工事で、送水管148m、配水管389mの工事費1,200万1千円、口羽簡易水道増補改良事業土居配水池の付帯工事で施設の外構工事を640万5千円で行った。

また、町単独事業配水管布設工事や水道施設機器更新を実施した。

これら工事の中で、小河内浄水場の次亜塩素酸注入ポンプと上田所浄水場の前処理攪拌機の現地踏査を行い、いずれの機器も更新されていることを確認した。

4. 財政状態について

令和2年度の資産合計は、58億7,647万1千円で、前年度に比べ2億2,614万2千円(3.7%)減少している。固定資産では償却が増えたため1億9,967万4千円(3.4%)、流動資産では現金が減っており2,646万8千円(15.7%)のともに減少である。負債合計は、44億2,452万5千円で前年度に比べ2億3,435万円(5.0%)減少している。これは繰延収益が6,120万1千円増加したが、固定負債で企業債、流動負債で未払金の減少が大きい。

資本合計は、今年度820万8千円の純利益が生じ、14億5,194万6千円に増加した。

前年度と比較した財政状態は、次表のとおりである。(※金額は税抜き)

(単位：千円・%)

区 分		令和2年度 (a)	令和元年度 (b)	増減 (a) - (b)	伸率 (a) / (b)	備 考
資産	固定資産	5,734,802	5,934,476	△199,674	96.6	
	流動資産	141,669	168,137	△26,468	84.3	
	資産合計	5,876,471	6,102,613	△226,142	96.3	
負債	固定負債	2,575,326	2,807,894	△232,568	91.7	
	流動負債	313,605	376,588	△62,983	83.3	
	繰延収益	1,535,594	1,474,393	61,201	104.2	
	負債合計	4,424,525	4,658,875	△234,350	95.0	
資本金	資本金合計	1,601,968	1,601,968	0	100.0	
剰余金	資本剰余金	662	662	0	100.0	
	利益剰余金	△150,684	△158,892	8,208	-	
	剰余金合計	△150,022	△158,230	8,208	-	
資本合計		1,451,946	1,443,738	8,208	100.6	
負債・資本合計		5,876,471	6,102,613	△226,142	96.3	

第4 審査意見

地方公営企業法を適用後4年目となった令和2年度は、初めて純利益を計上した。

これは、営業損失は依然として発生したものの、一般会計からの補助金の繰出基準が見直され、営業外収益が増えたことが大きいため、今までの累積欠損金がいくらか減少したことは明らかなことであり、決算書では、未処理欠損金1億5,068万4千円を資本金で補填する欠損金処分計算書(案)が示されている。

事業の根幹である給水状況について、令和2年度は、配水量と有収水量からみる有収率が、70.6%と前年度より下がったが、給水原価と供給単価からの料金回収率は、48.0%と前年度より僅かに上昇した。こうした毎年の数値の動きは、中山間地域の中にあつて地理的条件や気象条件に大きく左右されるもので、この水準が大きく変わることはない。また、給水人口や水道普及率にも限界がある。

こうした中で、引き続き町民に安全で良質な水道水の安定的な供給を願うところであるが、広い営業範囲の中にあつて、多くのところで施設の老朽化も見える。持続可能な運営に向けて、公営企業とは言え人件費を含めたコストの削減はもちろん計画的な施設整備、改修を心がけながらの努力を望むところである。